



迎 春

一九九九年の元旦は、実に穏やかな夜明けでありました。日の出を拝んでいてこれが、今世紀最後の年の夜明けかと思うと感慨深いものがありました。

現在、経済の不況問題が大きく叫ばれています。このことも大きな問題でしょうが、これから訪れてくる二十一世紀の百年が、政治・文化・教育の面で、人々の意識や暮らしがどうなっていくのかを憂慮するのは私だけでしょうか。

今日の日本の社会世相は決して、明るく健全とばかりは申されない状況であります。日本の国際的地位を見ても、次第に低下しているようなことはないでしょうか。

また先祖が、営々と築いてきた日本の伝統文化や日本思想が軽んじられている側面はないでしょうか。

私たちは、次代を背負う青少年が、国際的に信頼され、日本文化を高め、健全な国民として活躍することを願うものであります。そう思うと、現在の私達のつとめは、実に大きいものがあると言わざるを得ないと思えます。

いま、竜丘の地域も大きく変貌しようとしています。物理的には、暮らしは良くなっていることは確か

歴史の継承と新しい文化の創造

竜丘公民館長 木下 陸 奥



だと思えます。発展する変貌であっても決して失せてはならないものがあると思えます。

それは、この竜丘の地で育まれてきた土地文化であります。ことばや暮らしの情緒であります。

その美しいもの、歴史的に大事にされてきたものを継承し、磨きを掛けていかなければならないと思えます。更には、それらを土台として、新しい文化の創造を指向していきたいものであります。

公民館は、その役目に積極



発行所 飯田市竜丘公民館
編集人 竜丘公民館広報委員会
印刷所 龍共印刷株式会社
飯田市上郷黒田 ☎22-5353

人口	6,865人
男子	3,373人
女子	3,492人
世帯数	2,068戸
(10年12月末現在)	

昨年、十二月十三日に、友好会の料理文化交流が開かれました。

この会は、前号で触れましたが中国の帰国者との交流を目的としたプログラムで、実際の活動の第一回目となりました。

今回は日本の正月料理作りを通じての交流を目的として、まず餅つきから始まり、もち米をお釜で蒸して木の臼と杵をつかって全員の

「友好会」料理文化交流会

開かれる

一足早いお正月

かけごえに合わせた餅つきが始まりました。現在では家庭でこういった本格的な餅つきはなくなってきたので、中国で経験のない参加者と同様にへっぴり腰で杵を振るう光景を見ながら一気に雰囲気は和やかになりました。

餅は全部で四臼つかれ、そのままあんころ餅、きな粉餅、おろし餅、おそなえ餅、お雑煮となりました。つきたてのアツアツのお

餅を握って丸めるのもなかなか出来ないもので、熱いし、丸まらないし、これもまた言葉の壁を感じさせない雰囲気が出てきたようでした。

料理ができていよいよテーブルを囲んでの交流会の始まりです。

会場はクリスマス飾りがしてあったり正月風の飾りがあったり、ちょっとしたパーティ会場で、それぞれ片寄らず、うまく混じるよ

うに運営スタッフが割り振りし着席しました。日本語と中国語による短いスピーチのあとそれぞれのテーブルで、自分たちの作った料理をつきながら料理の出来映えを語りながら会話が始まりました。

料理のレシピも日本語と中国語で書かれており、同じ漢字を使う民族にもかかわらず、中国語のレシピがわからず、いちいち確認しながら交わす言葉が何より良い語学の交流になりました。

又正月の習慣について料理を通じて語り合い、改めて文化の違いを認識させられました。

食事が進むと、今度は歌が始まりました。日本の「お正月」を伴奏のハーモニカに合わせてみんなで歌いました。

交流会は席を替え、今度は畳の部屋で日本のお正月のゲームをみんなで楽しみました。みかん引き、百人



かけ声を合わせて！

生活基盤の整備は必要不可欠であるが、現在の車社会で、基幹となる道路の新規開設は、商業や農業を始めとして地域の生活基盤を一変させてしまう。一概に「開通＝地域の活性化」とは期待できないのではないか。むしろ大型店進出などの新たな土地開発が見込まれるが、長い目で見た時、どのように地域の活性化に繋がるのかを考えていきたい。基本は住み易さ、暮らし易さではないだろうか。地域活動への無関心さが言われるが、自分たちが暮らし地域のことを積極的ににかかわっていききたいものだ。

今年、その際発力で二十一世紀へ向けて飛躍の年にしたいものである。

おいしかったお菓子の家

おひさまぶんこ クリスマス会

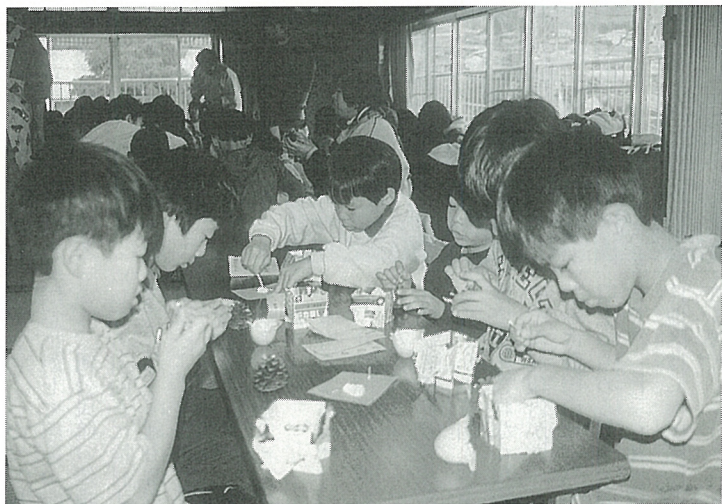
十二月十二日竜丘公民館でおひさまぶんこ(図書館 竜丘分館)主催のクリスマス会があり、園児から小学生まで百名くらいの参加者がありました。

まず、「まっぼっくりツリー」を作りました。緑にペイントしたまっぼっくりの一片一片にポンドをつけてたビーズを付けていきますが、そのうちに手からビーズが転げ落ち、あちらこちらで探す姿がみられました。

次は大きなツリーや、花などで飾られたクリスマス気分いっぱい部屋へ移動

お菓子の家の前で写真を撮った後、紅茶といっしょに、あつという間にこの家は、子どもたちのおなかの中へ消えました。

子どもと初めて参加したおかあさんは「自分の家で



まっぼっくりのミニツリーづくり

はなかなか準備もできないが、子どもといっしょに私でも楽しめて、参加してマス会を楽しみました。

よかったです。」と、とちよっぴり早い手づくりのクリスマス会を楽しみました。

年も新たに、「今年こそは」と切なる願いを持つ人が多いと思う。

昨年は、銀行破綻、企業倒産などの経済不安や政治不信、社会不安など、寅年にしては今ひとつ威勢がなく、なにかと不況・不景気の文字が乱れ飛んだ。

そのような中、国は緊急経済対策の一環として地域振興券(商品券)を配布する。どのくらいの景気の底上げとなるか期待するところである。取扱店は市内の店舗となるが、大型店などは集客能力に優れており、消費者としてはどうしても足が向いてしまう。しかし、商品券が大企業へ集約してしまつては、何のための地域振興券なのか。消費者も一考し、地元商店街の活躍にも期待したいところである。

今年、公民館建設を始めとし、治水対策、下水道、県道桐林大明神原線、天竜橋架替など大型事業が推進される。

生活基盤の整備は必要不可欠であるが、現在の車社会で、基幹となる道路の新規開設は、商業や農業を始めとして地域の生活基盤を一変させてしまう。一概に「開通＝地域の活性化」とは期待できないのではないか。むしろ大型店進出などの新たな土地開発が見込まれるが、長い目で見た時、どのように地域の活性化に繋がるのかを考えていきたい。基本は住み易さ、暮らし易さではないだろうか。地域活動への無関心さが言われるが、自分たちが暮らし地域のことを積極的ににかかわっていききたいものだ。

今年、その際発力で二十一世紀へ向けて飛躍の年にしたいものである。

うたごえ楽しむ新年会

第4回 ニューイヤーコンサート 開催

△ 去る一月二十三日、竜丘公民館を会場に『第四回 ニューイヤーコンサート』が開かれました。出演団 ……△
 △ ニューイヤーコンサート』が開かれました。出演団 ……△
 △ 体の皆さんは、日頃の練習の成果を出し、それぞれ ……△
 △ に特色のある発表で盛り上がりしました。 ……△

開会の一時三十分には、公民館の大会議室はあふれんばかりの人々で埋まり、熱気に包まれました。公民館長の挨拶の後、出演団数十一のトップをきり、桐林琴クラブと時又如月会の皆さんによる大正琴の素晴らしい音色の合同演奏から始まりました。

今回は、地元竜丘小学校の生徒さんが数多く参加しました。合唱クラブは伊那谷芸術祭で発表した曲を含め、大舞台の経験をつんだ自信溢れる歌を歌ってくれました。三年生の有志によるリコーダー演奏もありました。リコーダーは三年生から習い始めますが、今回



鈴岡太鼓の熱演

のコンサートに参加する有志を募ったところ、十名もの応募があった。たの事休みの時間を使って練習した成果を発表してくれました。又、松原音楽教室有志の皆さんのハ

の参加に有志を募ったところ、十名もの応募があった。たの事休みの時間を使って練習した成果を発表してくれました。又、松原音楽教室有志の皆さんのハ

の会は、和琴で洋風な曲を演奏してくれました。そして鈴岡太鼓の勇壮な太鼓演奏があり、いよいよライナーレハ。観客と出演者全員で、『四季の唄』と『ふるさと』の二曲の大合唱で、感動のうちに幕を閉じました。



小学校合唱クラブの発表

この後、懇親会ではコンサートの盛り上がりそのままだに、『気軽に夢を語り合いましょう』との、テーマにわきあいあい語り合いました。今回のコンサートには、

この後、懇親会ではコンサートの盛り上がりそのままだに、『気軽に夢を語り合いましょう』との、テーマにわきあいあい語り合いました。今回のコンサートには、

現在大人の学校の生徒数は百余名、今後二百人まで増やしていきたいとありますが、それだけの人数の学習できる教室がありません。新設される公民館には是非広い教室を作っていただきたいとのことでした。仲間と共に楽しく前向きに勉強されている生徒の皆さんで、活気あふれる大人の学校、あふれるパワーと輝く笑顔がとても印象的でした。

青年の主張

「青年塾」。それは、成人式を企画運営する実行委員のことです。去年の八月から、私もこの青年塾の一員として、「飯田再発見」をテーマにいろいろな活動をしてきました。

青年塾が 教えてくれたこと

時又 牧内 千栄美



その後、これらの活動を雑誌にまとめるための会議をしたり、成人式の打ち合わせがあったりと忙しい日々が続きました。

その日、この日になってやっ

名物である五平餅作りを教えていただき、浜松市の二十代のグループ「はたちの講座」の皆さんに、この五平餅作りを通して飯田の文化を伝えようと、浜松へ出かけたりもしました。

と、青年塾生として頑張ってきたからこそ、この成人式が、こんなに感動するものになったのだと分かり、青年塾生になったことを誇りに思いました。最後にみんなで立ったステージの上

新しい人間関係を結ぶことができたと感じています。私もこの間入ります。これからの人生、頑張ってください。

とができて、私もおこ

この青年塾を通して、飯田を再発見できたとともに、

この青年塾を通して、飯田を再発見できたとともに、

行政を身近なものに 市政懇談会開かれる

竜丘公民館建設を始め、近隣町村から桐林クリーンセンターへのゴミ搬入、治水対策、下水道整備、二十八メートル道路など様々な事業が計画、進行される中、市政懇談会が、師走も近づき十一月二十六日に上川路公民館で開かれた。

今年度の懇談会は、地元からの意見、要望をのべる

から現在までの歩みを報告した。

古墳を考える会は、昭和六十一年頃の公民館活動

「地域づくり学習会」の中で注目され、古代の人々が

「古墳を考える会」は、昭和六十一年頃の公民館活動で注目され、古代の人々が遺した貴重な遺産を、国道一五一号の開通や地域開発で消滅させないため、保存活動に取り組むながら地域おこし、地域づくりの教材として活用しようとして、平成元年に発足した。

その後、現在に至るまでに行なってきた、古墳マップ作成、発掘作業の体験学習、古代食農園など様々な活動を報告し、最後に飯田の古墳は全国的にも注目さ

引き続き行なわれた「飯田市長が近い」の中で、治水対策への協力と、クリーンセンターへのゴミ搬入の同意に対して感謝の言葉を述べ、新公民館の建設に対しても前向きに検討すると明言した。市側出席者紹介のあと、保健福祉部、知久一彦部長が近く導入される介護保険制度について説明した。

本格的な高齢社会が到来し、介護問題は今後の最大の不安要因となっているが、一方で核家族化や少子化で、もはや介護を個人や家族だけで支えきれなくなっている現状報告があった。ちなみに飯田市は、六十五歳以上の占める割合（高齢化率）が二十二・四％で、竜丘地区は二十・四％となっている。

介護保険制度は、こうした問題を解決するための手段で、飯田市が運営主体と

なり、平成十二年四月から施行となるため、保険料、対象者、サービス内容などの説明があった。

最後に水道環境部、井川弘志部長が、廃棄物の循環システムについて説明した。これは、現在最終処分場となっている龍江のイタチガ沢も、限界が近づいているために、現在デポジット方式をとっている、一升ビン、ビールビン以外を回収しリサイクルする事で、埋め立てゴミが減少すればと始めたものです。「住民の努力により、埋め立てゴミが少しでも減るように」と協力を求めた。

日頃から行政とは、何かと縁遠い私たちですが、疑問に思う事を聞く事が、行政に参加する第一歩ではないでしょうか。



古墳を考える会、昭和六十一年頃の公民館活動で注目され、古代の人々が遺した貴重な遺産を、国道一五一号の開通や地域開発で消滅させないため、保存活動に取り組むながら地域おこし、地域づくりの教材として活用しようとして、平成元年に発足した。

その後、現在に至るまでに行なってきた、古墳マップ作成、発掘作業の体験学習、古代食農園など様々な活動を報告し、最後に飯田の古墳は全国的にも注目さ

古墳を考える会、昭和六十一年頃の公民館活動で注目され、古代の人々が遺した貴重な遺産を、国道一五一号の開通や地域開発で消滅させないため、保存活動に取り組むながら地域おこし、地域づくりの教材として活用しようとして、平成元年に発足した。

その後、現在に至るまでに行なってきた、古墳マップ作成、発掘作業の体験学習、古代食農園など様々な活動を報告し、最後に飯田の古墳は全国的にも注目さ